

研究主題 ものづくりを生かした奉仕体験活動の在り方について

～ 学校の特色に応じた生徒の自主的な取組を促す指導プログラムの研究 ～

都立町田工業高校 井戸 康文 他 8 名

#### ◎研究のねらい

平成 19 年度からの奉仕体験活動の実施に先駆けて、教育課程の位置付けを行うために、学校の特色を生かした奉仕体験活動の在り方について研究する。

##### 1 学校の特色を生かした、奉仕体験活動の在り方

専門高校の特色を生かして、ものづくりを基本とした奉仕体験活動の在り方を検討するとともに、工業高校の専門教科・科目だけでなく、普通教科・科目が関わる奉仕体験活動についても検討する。具体的には家庭科や、地歴公民科の分野でも実施できるようなものを研究する。

##### 2 生徒の規範意識や成功体験、成就感など、心の教育を伴う活動内容の在り方

人権教育プログラムを活用しながら、生命の尊重や、奉仕体験活動の意義をとらえていく。また、奉仕体験活動を通して、自分探しを行い、将来設計からキャリア教育へと移行できるようなプログラムの開発を目指す。さらに、奉仕体験活動の実践を行うことによって、本校の教育目標の実現を図る。

##### 3 本校の生徒が取り組みやすい奉仕体験活動の研究と環境整備

#### ◎研究の内容

1 奉仕体験活動の内容を検討し、本校の生徒が取り組める奉仕体験活動について検証する。本校の生徒が取り組めるモデルケースを考え、教育課程への位置付けを検討した。その結果、奉仕体験活動の在り方を①積み上げ型、②集中型、③通年型に置き換え本校の特色にあった型を想定しながら授業計画を研究した。

研究の結果、取り上げる学年としては、1 学年後半から、2 学年前期までに行う内容に設定した。理由として、1 学年後半から 2 学年へと、連続して行えるような授業計画を整えること。夏季休業中を大いに活用し、活動しやすさを配慮したこと。さらに他の教科とのバランスを配慮し、積み上げ型と集中型にポイントを置いたこと。本校生徒の特徴から、少しずつ積み上げながら、集中した内容であるとともに柔軟に対応できる方法を考えた。以上のことから、集中型と分散型の利点をあわせもった活動内容を取り入れた。

##### 2 奉仕体験活動を自主的に実践させるための事前指導の工夫

年間指導計画の 17 時間目から 24 時間目を事前学習として、ポートフォリオ形式によるグループでの学習を検討した。ワークシートを活用し、第 1 ステージから第 4 ステージまでを段階的に実施できるように計画した。

第一ステージでは生徒が自分自身の特性を見つめ直すプログラムを作り、第 2 ステージでは生徒個人の特性から、グループを作り、グループでの特徴を検討させるプログラムを設定する。第 3 ステージでは、グループの特徴から、自分たちで何ができるのか、また、自分たちの住む地域社会で必要とされていることなどを調べ、奉仕体験活動の内容を検討

していくプログラムを作成した。第4ステージでは実際に、検討した内容についての実施計画を作成するプログラムとした。

### 3 規範意識の調査

奉仕体験活動を自ら進んで自主的に行った生徒と、活動を行っていない生徒を比較し、奉仕体験活動の在り方を検証する。

奉仕体験活動を実際に行ったグループと、無作為な集団（1学年のクラス）から規範意識の調査を行った。

各グループを比較し、規範意識を高めるために、どのように工夫するかを検討し、奉仕体験活動の意義や、具体的な指導の根拠として役立てた。

奉仕体験活動を取り上げる意義として、①社会奉仕の観点から、自己有用感や成功感を体験させる。②規範意識を育てる。そのため、個人の尊厳と人権教育の視点から、規範意識を育てる指導を確立する。

### 4 生徒へのアンケート調査

奉仕体験活動の活動内容を選定し、活動を実施した後に、全生徒に対してアンケート調査を行い、生徒の取組と今後の奉仕体験活動の内容について検討した。

### 5 ワークシートの活用

事前指導に、4枚のワークシートを使い、奉仕体験活動の意義と内容について手順を追って作り上げ、自主的に計画を立てさせる指導形態を確立した。

## ◎研究の成果

奉仕体験活動が及ぼす効果についての検証

- 1 授業計画については、生徒の自主性を促すための時間配分が確認できた。
- 2 人権教育プログラムと生命の尊重の指導を通して、自己肯定感の育成に効果があった。
- 3 キャリア教育について、ワークシートとポートフォリオ型の授業を実施したことによって効果があることが確認できた。生徒自身の個性の発見と勤労意欲の向上につながった。
- 4 ワークシートを活用し、生徒に発表させることが、奉仕体験活動の内容と意義を理解させることに役立った。
- 5 奉仕体験活動を行った生徒の調査結果から、奉仕体験活動の有効性について確認できた。中には、奉仕体験活動を好まないという生徒もいたが、概ね、これからの生活に奉仕体験活動は必要であるという回答を得ることができた。

## ◎今後の課題

本校生徒が今後、自立して奉仕体験活動を行うためには、ワークシートに頼らず、自ら率先して、奉仕体験活動の意義を考え、自己理解を深め、参加していく意欲と態度を育てる教材の開発が必要である。また、そのための指導時間の確保と、開発した教材による指導方法の確立が必要である。さらには、奉仕体験活動の専門家が学校には存在しないことから、安定した指導を行うことができるマニュアルや資料作りが今後の課題となる。

〈共同研究者〉

都立町田工業高校 猪狩 祥司      福地 俊哉      篠原 史江      大津 美緒  
赤池 知足      井上 弘一      根津 好夫